



社会福祉法人 青梅みどり福祉会
かすみ保育園

10月保健だより

10月10日は目の愛護デー

「10」を横にすると、まゆと目に見えるので、10月10日は「目の愛護デー」
子どもの目を守るには、感染症や怪我だけでなく、「見え方の異常」にも注意が必要です。この機会に異常のサインを知っておきましょう。

小さい子どもは「見る力」も育ちざかり！

赤ちゃんの目は、生後すぐにはぼんやりとしか見えていませんが、その後1歳までの時期は急速に「見る力（視力）」が発達します。3歳までには、多くの子どもが大人と同じ程度（視力1.0）まで見えるようになります。「見る力（視覚）」はゆるやかに発達し、6歳頃には大人と同程度になります。

生まれてすぐ（視力0.01）

1歳（視力0.2）

3歳（視力0.8～1.0）

5歳（視力1.0）



明るい、暗い程度しか
認識出来ません。



立体的に見る力、動くもの
を見る力など、視力が
急速に発達します。



大人とほぼ同じぐらい
まで視力が育ってきま
す。



ほとんどの子どもが、
大人と同じ視覚を身に
つけます。

早く治療するほど回復しやすい！

★こんなサインに注意★

- ・頭を傾げる
- ・目を細める
- ・片方の焦点が合わない
- ・片目をつぶって見る
- ・横目で見る

見る力は、目から情報を取り入れ、脳で処理することを、毎日繰り返して育ちます。ところが、目に異常があると脳に情報が届かず、見る力が育ちません。早く治療を始めるほど回復しやすいため、**見え方の異常に気付いたら、早めに眼科で相談しましょう。**

正面から「見る様子」をチェックしましょう！

見え方のチェックにおすすめなのが、紙芝居です。左右の目の焦点、ものを見る様子がわかります。



2日（木）全園児健康診断（午前）

3日（金）身体測定



9月の報告

9月の感染症は、アデノウイルス感染症1名、溶連菌感染症2名、水いぼ1名の感染報告がありました。

秋は、おいしい食べ物がたくさんとれるうえに、涼しくなり「食欲の秋」ともいわれます。いろいろな物をしっかり食べて、暑さで弱った体を元気づけましょう。